

# グルジア政治・経済 主な出来事

【2014年1月20日～2014年1月26日】

[当地報道をもとに作成]

平成26年1月29日

在グルジア大使館

## 主な動き

### 1. アブハジア・南オセチア

#### 【南オセチア】

##### ▼ティビロフ「大統領」が「内閣」を罷免(20日)

・ティビロフ「大統領」が満足して1年半になる「政府」を罷免。クルムベゴフ「第一副首相」が「臨時首相代行」に任命された。

・ティビロフ「大統領」は、昨年、ロシアの資金援助が正しく使用されているかどうかをロシア会計院の専門家が検査した結果、深刻な違反・不足が数多く見つかったとして、「政府はその問題を放置した。数多くの深刻な失敗と怠慢により、私は政府を罷免する決断をせざるを得ない」との声明を発表。

##### ▼第41回IPRM会合(21日)

・OSCE 議長国スイスの代表としてグネディンガー氏が初めて出席。行政境界線上の障害物の設置に関連し、現地住民が直面しているさまざまな問題が提起された。電力・水の供給および耕作地の汚染の問題について建設的な議論が行なわれた。

### 2. 外 政

#### ▼マルグヴェラシヴィリ大統領がトルコを訪問(20日—21日)

・昨年11月に大統領に就任して以来初の外国訪問。  
・アンカラでトルコのギュル大統領、エルドアン首相、チェク大国民会議議長と会談。トルコに暮らすグルジア人コミュニティの代表者と面会。

・21日、トルコ東部に残る中世グルジアのオシキ教会およびイシュハン教会を訪問。同行したイメルシヴィリ国家安全保障会議書記によれば、「2014年中にイシュハン教会の修復が完了し、オシキ教会の修復も開始される」。

#### ▼ラヴロフ露外相の発言(21日)

・グルジアにソチ冬季五輪の安全保障に対する貢献の意思があることをロシアは評価するが、二国間関係に「あらゆる改善の兆し」が見られる一方で、2008年の戦争後の「現実」をグルジアが認めようとしなことが両国の関係を制限する要因となっているとして、「ロシアにその現実の承認を撤回させようとする努力は非生産的で無駄なものである」と発言。

#### ▼ペトリアシヴィリ欧州・欧州大西洋統合問題担当国務大臣がスロヴァキアを訪問(21日)

・ライチャク・スロヴァキア外務・欧州問題担当大臣と、グルジアのNATOおよびEUへの加盟の見通し、2014年のNATO首脳会議について会談。

#### ▼カバナゼ参謀総長がNATO本部を訪問(22日—23日)

・「カ」参謀総長はバルテルス NATO 軍事委員会委員長と NATO グルジア関係について会談。ISAF 後の活動に対する積極的な貢献を約束した。会談後、バルテルス委員長が2月にグルジアを訪問することが発表された。

・「カ」参謀総長は非 NATO・ISAF 参加国会合に出席。

#### ▼米フリーダム・ハウスが「世界の自由度」についての年次報告書を発表(24日)

・「政治的自由」および「市民的自由」の2つの指標による評価で、グルジアは昨年と変わらず「部分的に自由」のカテゴリーに分類されている。

・フリーダム・ハウスは、前政権の高官に対する選択的司法の危険性を指摘しつつ、2013年10月の大統領選挙を評価し、民主制度が発展しつつあるとして、ユーラシアにおける「数少ない明るい地域」と記している。

#### ▼ウクライナ情勢に関する国会声明(22日)

・国会は、ウクライナでの市民に対する暴力の行使に深い憂慮を表明し、「グルジア国会は、自由、法治および人権の原則に基づいた欧州の家族の完全な一員たらんと希求するウクライナの人々に完全な連帯を表明する。ロシア連邦は、EUとの連合協定に対して拒否を強いることによって、欧州を志向するウクライナとグルジアの選択を変えさせることはできないとグルジア国会は確信している」との声明を全会一致で採択。

#### ▼ルフォール拡大・近隣政策担当欧州委員がグルジアを訪問(22日)

・「ル」委員は交代により今後ジュネーブ協議から離れる。  
・数日前に南オセチアのメディアが、「南オセチアの国の運命を住民が決めてから長い時間が経ち、それを変更することは事実上不可能だ」と「ル」委員が述べたと報じたことについて、発言を否定し、「グルジアの領土一体性に対するEUの支持は揺るがない」と説明。

・「ル」委員はアブハジアおよび南オセチアも訪問した。

#### ▼チカイゼ内務大臣が英国を訪問(22日—24日)

・ロンドン警察指令室を視察。昨年発足した英国犯罪対策庁の長官と会談。組織犯罪と機密情報の処理の分野での協力に関する覚書に署名。

#### ▼ガリバシヴィリ首相がダボス会議に参加(22日—25日)

・スイス、ダボスで行なわれた第44回世界経済フォーラムに参加。クヴィリカシヴィリ経済・持続的発展大臣、パンジキゼ外務大臣、バフタゼ・グルジア鉄道社長、ペルタイア・グルジア投資局長、パチアシヴィリ・グルジ

ア共同投資基金代表が同行した。

・アリエフ・アゼルバイジャン大統領やナザルバエフ・カザフスタン大統領とともに「ユーラシア一次の境界線」、および「南コーカサスと中央アジアーグローバル経済への道」の部会に出席し、講演を行なった。

・カタイネン・フィンランド首相、イルヴェス・エストニア大統領、ブルクハルター・スイス大統領、サウジアラビアのファイサル王子、ビルト・スウェーデン外務大臣と会談。

・Blackstone Group、Tata Sons、AGCO、LUKOIL、Maersk、Royal Philips など数多くの企業の代表者および米国の投資家ソロス氏と会談。グルジアのビジネス環境を紹介し、投資を誘致。

・ラガルド IMF 専務理事およびチャクラバルティ EBRD 総裁と会談。2015 年に EBRD 年次総会をトビリシで開催することで合意。

### 3. 内政

#### ▼新しい検事総長が任命される(21日)

・ガリバンヴィリ首相は 32 歳のギオルギ・バダシヴィリ氏を新しい検事総長に任命した。「バ」氏は 2006 年から財務省調査局にて勤務。その後 2013 年 5 月から 11 月まで内務省汚職対策局の副局長、2013 年 11 月より検察の捜査局長を務めていた。

・法律上、検事総長は法務大臣が指名し、首相が任命することになっているが、ツルキアニ法務大臣は 17 日に「新しい検事総長の人選に関わっていない」と述べていた。

#### ▼大臣の給与額の引き下げ(22日)

・ガリバンヴィリ首相は、大臣の給与を 6300 ラリから 5000 ラリに引き下げると発表。メディアが給与および諸手当が高額であると批判していた。

#### ▼国会が公共放送局の評議員 1 名を選出(23日)

・国会は、評議会の定員 9 名のうち、昨年 12 月 27 日に 3 名のみを承認した。残り 6 名を決定するために国会で再度採決が行なわれたが、野党「統一国民運動」(UNM) およびアジャラ自治共和国最高評議会の推薦した候補者は承認されず、ナヌアシヴィリ人権保護官が推薦した 1 名しか承認されなかった。

・24 日、OSCE「メディアの自由」代表は、国会が定員を選出できなかったことに「失望した」との声明を発表。

#### ▼イヴァニシヴィリ前大統領が NGO を設立(23日)

・「イ」前首相が「国内の市民社会を強化するため」設立した NGO「市民」が法務省に登録された。28 日に記者会見を開き詳しい活動計画を発表する予定。

#### ▼国会が地方自治改革法案の第二読を承認(24日)

・法案は 12 の都市の市長および全ての地区長を住民の直接選挙で選ぶ(現在はトビリシ市長のみ)とするもので、賛成 84 名、反対 14 名で承認された。

・UNM は直接選挙を実施する都市の数を更に増やすことを主張するとともに、市議会および地区議会がそれぞれ市長および地区長を罷免できるとする条項を批判。法案によれば、市・地区議会は議員の半数あるいは 2 割の有権者の署名により弾劾の手続きを開始し、議員の 3 分の 2 の支持により市長・地区長が罷免される。

・NGO「公正な選挙と民主主義のための国際社会」とグルジア青年法律家協会、Transparency International Georgia も「直接選挙の意義を損なう」として、同条項に対する反対の立場を表明している。

・1 回目の投票で当選するための法定得票率は現在のトビリシ市長選挙では 30%。与党連合を構成する諸党は、2010 年にこれを 50%にするよう前政権に要求していた。12 月に国会が承認した法案の第一読でも法定得票率は 50%とされていたが、1月 16 日、ガリバンヴィリ首相はこれを市長選挙で 40%、地区長選挙で 33%に引き下げると発言。国会外野党は引き下げに反対する共同声明を発表。青年法律家協会などの 4 つの NGO も市長選挙と地区長選挙の法定得票率を同じにするよう共同声明を発表。

### 4. 経済

#### ▼環境対策に関する日本の無償資金援助(20日)

・20 日、日本からの 2 億円の無償資金援助に関する署名式が行なわれ、ハドゥリ財務大臣と貝谷日本大使が署名。署名式にはゴガラゼ環境・天然資源保護大臣も出席した。無償資金は自然災害や産業事故の予防・対策およびトビリシにおける大気質の監視のための機材の購入に充てられる予定。

#### ▼EBRDが2014年のグルジアの経済成長率を4.5%と予測(23日)

・2013 年 10 月の予測から 0.5%引き上げた。世界銀行の予測は 6.3%。グルジア政府は 5%を見込んでおり、IMF は現実的な見通しであると評価している。

#### ▼カズベギの水力発電所が運転開始(24日)

・ロシアとの国境付近に完成した出力 19MW の水力発電所が運転を開始。カラゼ・エネルギー大臣とナルマニア地方発展・インフラ大臣が記念式典に出席した。

#### ▼2013年の貿易収支(24日)

・貿易額 10,784 百万ドル(前年比 6.0%増)、輸出額 2909 百万ドル(同 22%増)、輸入額 7874 百万ドル(同 0.4%増)。貿易収支は 4965 百万ドルの赤字。

・貿易相手国は地域別に CIS 諸国 35%、EU 諸国 27%、その他 38%。国別には貿易額の多い順にトルコ、アゼルバイジャン、ウクライナ、ロシア、中国。

・ワインの輸出額が前年比約 2 倍、ミネラルウォーターの輸出額は同 8 割増となった。

・日本との貿易高は輸出 3,570.9 千ドル、輸入 319,939.8 千ドル。